

# ホーム・ルームの運営について

生活指導委員会  
研 究 部

## (一) ホーム・ルーム概況

### 1 目 的

- (1) 学校生活に潤いと安らぎを与え、悩み多い青年期生徒の希望に満ちた精神的源泉地となる。
- (2) 教官と生徒の話しあいの場、生徒相互の親交の場となり、特に個人指導を重視する。この際、進学や職業面に指導の及ぶのは当然である。
- (3) 生徒が全人として円満な発達を遂げるように人格指導、社会指導などが行われる場とし、あわせて生徒の自治的活動によって遺憾のない発展を期する。
- (4) 学校管理の単位、および生徒会運営の下部組織として十分な機能を果たすようにつとめる。

### 2 運 営

- (1) ホーム・ルームには次の役員をおく。
  - ① ホーム・ルーム委員 2 名 (男女各 1 名)  
任 務
    - (イ) ホーム・ルーム運営の中心となる。
    - (ロ) ホーム・ルーム相互の連絡をはかる。
    - (ハ) ホーム・ルーム委員会に出席してホーム・ルームの意向を代表する。
  - ② 会 計 1 名  
任 務
    - (イ) ホーム・ルーム費の出納を司る。
    - (ロ) その他所属の会計事務を司る。
    - (ハ) ホーム・ルーム委員に事故のある時はその代理をする。
  - ③ その他行事のあるごとに適當数の役員がおかれる。  
以上の役員はホーム・ルームの中から選挙される。
- (2) ホーム・ルームを次の二つに分ける。
  - ① ショート・タイム 毎日規定の時間に行い、必要な生徒管理の事項および事務連絡を主とする。(水曜を除く 2, 3 限間の 20 分をこれにあてる。)
  - ② ロング・タイム 正課の時間に設けて、ホーム・ルーム活動の中心となる。
- (3) ロング・タイムの計画、運営
  - ① 指 導 目 標
    - (イ) 個人的発達指導
    - (ロ) 公民的発達指導

(イ) 健康指導, 余暇指導

これに基いて各学年の指導の基準を次のようにする。

第1学年 高校生としての自覚の喚起, 個人的(発達)訓練。

第2学年 公民的(発達)訓練, 自治的訓練。

第3学年 個人的問題, 進学就職についての諸問題。

② 内 容

(イ) 訓 育

(ロ) 自治活動

(ハ) リクリエーション

上記に基いて, 具体的活動は大体次のようなものが取扱われる。

- |                       |                       |
|-----------------------|-----------------------|
| a. 学校組織, 諸規定の理解       | b. 快適な学校生活            |
| c. 自己の性格分析, 生活反省      | d. 交友の問題              |
| e. 社会倫理, 時局問題         | f. 正しい人生観             |
| g. 進学, 就職の諸問題         | h. 討論会, 座談会, 発表会, 読書会 |
| i. 合唱, レコードコンサート, 演芸会 | j. スポーツ               |

k. その他

③ 計画, 運営

ホーム・ルーム主任が, 各自のホームにおいて各ホームに最も適した年間計画を生徒と共に立案し, ホーム・ルーム役員が中心となってホーム・ルーム主任の適切な指導のもとにホームの生徒全員が運営にあたる。

(補導係は各ホーム・ルーム運営の管理を司る。)

(二) 時 間 表

|                | 8. 40            | 月 | 火 | 水           | 木 | 金 | 土 |
|----------------|------------------|---|---|-------------|---|---|---|
| 1              | 8. 45<br>9. 35   |   |   |             |   |   |   |
| 2              | 9. 40<br>10. 30  |   |   |             |   |   |   |
| ホームルーム・ショートタイム |                  |   |   |             |   |   |   |
| 3              | 10. 50<br>11. 40 |   |   | 特別教育<br>活 動 |   |   |   |
| 4              | 11. 45<br>12. 35 |   |   |             |   |   |   |
| 中 食 時          |                  |   |   |             |   |   |   |
| 5              | 13. 20<br>14. 10 |   |   |             |   |   |   |
| 6              | 14. 15<br>15. 05 |   |   |             |   |   |   |

・水曜日のショートタイムは学校集会。

・水曜日の3限の特別教育活動はロングタイムと学校集会を隔週に行う。

以上については既に数年実施してきたものである。

### (三) ロング・ホーム・ルーム 指導方針

近時、小中高等学校において、道德教育の声が高まり、本年から小中学校では正式に教育課程に組み入れられ、高等学校でもとかくの論議がなされてきている。

本校においても以前より道德教育の問題を如何にとりあげるかは協議されていたが昨年未、本格的に生活指導委員会なるものが組織され、その検討にあたってきた次第である。

そもそも生活指導は抽象的なものでなく、現実の生活条件のもとに、生活能力の増大という実際的な目標をもつ人間教育である。

その方法としては一つは個別指導であり、一つは集団指導である。

集団指導の場は多く、学校教育それ自体が集団指導の場でもある。従って生活指導はそのため特定の時間のみに行われるべきものではないが、その大きな一つの場としてのホーム・ルーム運営からまず着手する事にした。

ホーム・ルームには更に学校管理という大きな目標もある。この事を考慮し、それらのよりよき運営を目的として学校全体としての統一をもった計画案を一応作りあげた。

勿論ホーム・ルームの運営は教師のみの考えによってなされるのでなく、生徒の希望を入れながらすすめてゆくものである。従ってこの全体計画を作るにあたっては現在のホーム・ルームの状況は勿論いままでに行った調査統計の結果を参考にしている。更に実際にホーム・ルーム主任が運営するにあたっては本案を骨子として、各ホームに適した運営をなす事にする。

なお主題のえらび方も出来るだけどの学年も同じ主題のもとに行うようにし、その内容に質的变化をもたせるようにした。それにより例えばアセンブリーの時の運営などもその趣旨にそって行うようにした次第である。

さて、実際に道德内容に関連した主題をえらぶにあたっては次のような根本方針に従った。

まず、二本の座標軸をとり、横軸の方に時間（主として時間にとまらう行事）をとり縦軸の方に道德内容とか指導内容をとることとした。その横と縦との対応関係として各月のホーム・ルームの主題をえらぶ事にした。その対応関係を例えば  $y=f(x)$  と表わすならその函数  $f$  としては必要数とでも解釈しておくものである。即ち理論的には道德内容はその月にも必要なものであるが、その中でとくに必要なものというような意味に  $f$  を解釈したわけである。従ってある特殊な内容のものは  $y=const.$  にあたるものもある。然しながら、これはあくまでも根本方針であり、実際には必ずしもそのようにはなっておらない。

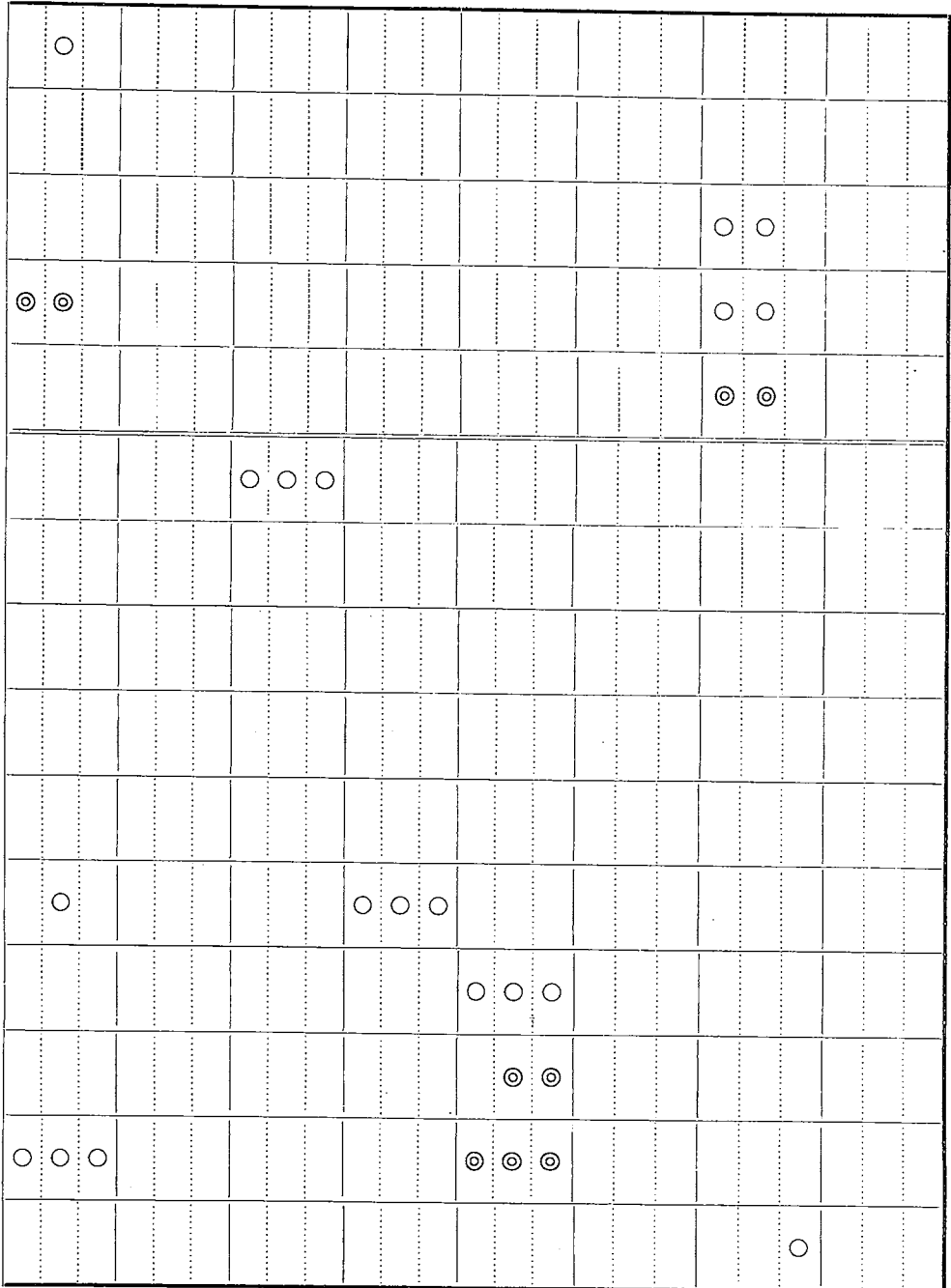
それでは、その道德内容としては何がよいかという事が大きな問題になるが時代を背景にした倫理というものは必要十分な条件を満足するものとしてとうてい客観的に示し得るものではない。従ってここには根本的な倫理については深く追求せず、常識的に（主として第一学年には）中学校における完成という目的をもち、文部省が示している中学校の道德内容を取り、又高等学校社会科社会でなされる指導内容、更に本校の特色としての所謂校訓をとりあげることとした。然し、今後この点については深く検討しようと思っている。

ホーム・ルームは道德内容のみを考えて構成されるものでなく、特に三年においては生徒の最大の関心事は目前にせまった入学試験であり、これをおいていたずらに理想的な考えで運営しようと思っても全く興味のない修身科的なものになるおそれがある。

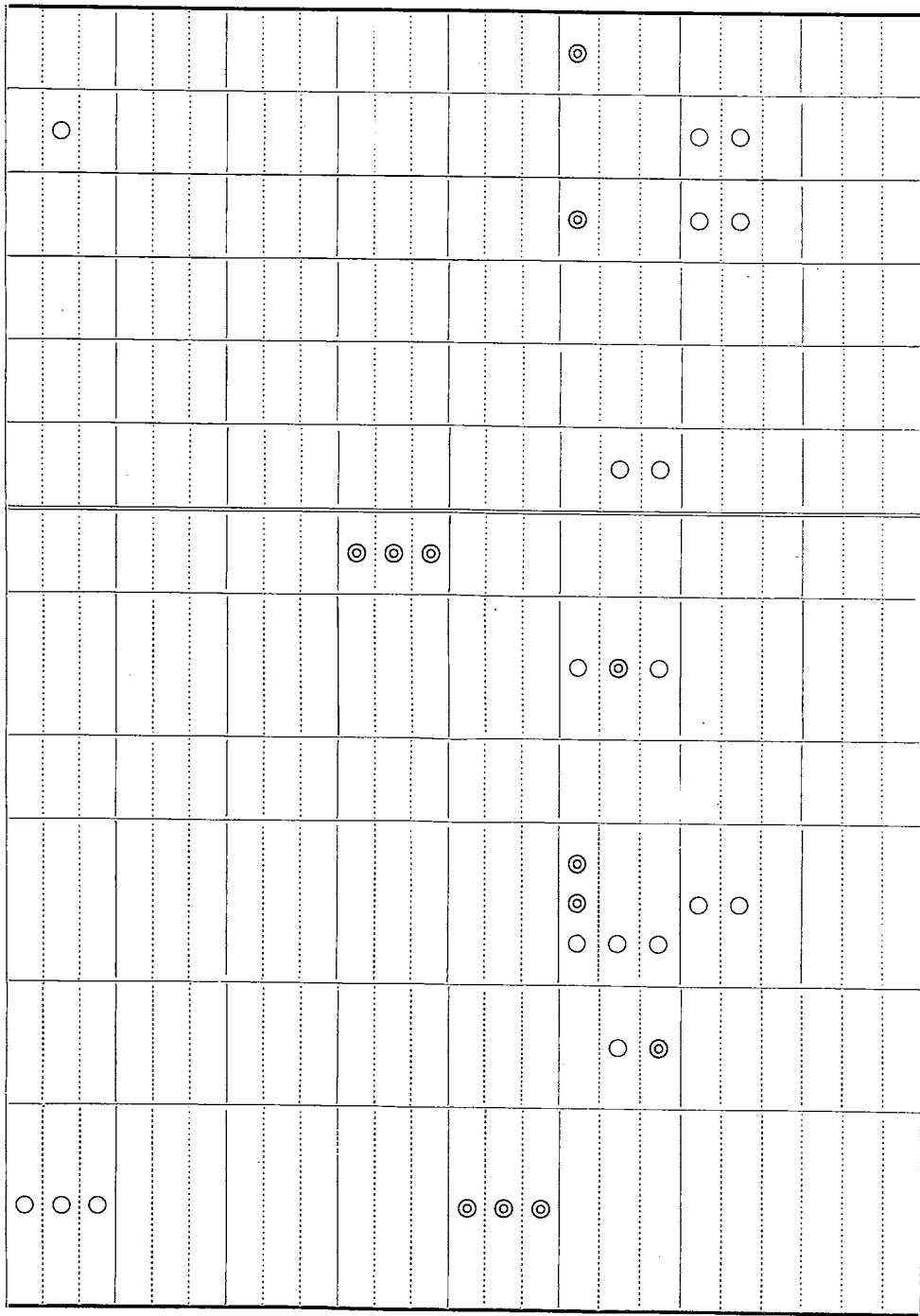
以上の考察より、別紙の如き計画案をたてた。

(四) 資 料

|   |  |   |   |  |   |   |   |   |  |
|---|--|---|---|--|---|---|---|---|--|
| 中<br>学<br>校<br>道<br>徳<br>教<br>育<br>内<br>容 | 〔I〕<br>応じて適切な言語動作ができるように時と所に理解し、これを習慣づけることと基本的な行動様式をよく理解     | 1) 生命を尊び安全の保持に努め、心身ともに健全な成長と発達をとげるように励む               |   |  | ◎ | ◎ | ◎ |   |  |
|   |  | 2) 正確適切な言葉づかいや、能率的な動作が出来る                             |   |  | ○ | ○ | ○ | ◎ |  |
|   |  | 3) 整理整頓の習慣を身につけてきまりよくものが処理できる                         |   |  | ○ | ○ | ○ |   |  |
|   |  | 4) 時間や物資や金銭の価値をわきまえてこれを活用する                           |   |  | ○ | ○ | ○ |   |  |
|   |  | 5) 仕事をすすんで行い根気よく最後までやり抜く態度や習慣をみにつける                   | ○ |  | ○ | ○ | ○ |   |  |
|   | 〔II〕<br>創造的な生活態度を確立する<br>道徳的な判断力と心情を高め、それを対人関係の中に生かして豊かな個性と、 | 1) 人間としての誇をもち、自分で考え、判断し、実行しその責任を自らとるように努める            | ○ |  |   |   |   |   |  |
|   |  | 2) すべての人の人格を尊敬し、他の特性がともに生かされるように努める                   | ○ |  |   |   | ◎ | ○ |  |
|   |  | 3) つとめて謙虚な心をもって、他人の意見に耳を傾け、自己を高めていこう                  | ◎ |  |   |   |   | ○ |  |
|   |  | 4) 他人と意見がくい違う場合にはつとめて相手の立場になってみて建設的な批判をする態度を築いていく     | ○ |  |   |   |   | ○ |  |
|   |  | 5) あやまちは率直に認め、失敗にくじけないようにする、又他人の失敗や不幸には、務めて暖かい励ましをおくる | ○ |  |   |   |   | ○ |  |
| 6) 異性関係の正しいあり方をよく考え、健全な交際をする              |  |   |   |  |   |   | ○ | ◎ |  |
| 7) 常に真理を愛し、理想に向って進む誠実積極的な態度をきづいてゆく        |  |   |   |  |   |   |   |   |  |
| 8) 真の幸福とは何であるかを考えたえずこれを求めてゆく              |  |   |   |  |   |   |   |   |  |
| 9) 情操を豊かにし、文化の継承と創造に励む                    |  |   |   |  |   |   |   |   |  |
| 10) どんな場合でも人間愛を失わないで生きる                   |  |   |   |  |   |   |   |   |  |



|                               |   |   |   |   |   |   |   |
|-------------------------------|---|---|---|---|---|---|---|
| 中学校<br>道徳教育<br>内容             | 〔Ⅲ〕<br>民道力<br>民主的<br>性を<br>発達<br>させ、<br>より<br>よい<br>社会<br>の建<br>設に<br>協<br>力す<br>る                    | 1) 家族員相互の愛情と思いやりと尊敬によって健全な家庭をきづいてゆく   |   |   |   |   |   |
|                               |   | 2) お互いに信頼しあい、きまりや約束を守って集団生活の向上に努める  | ○ |   |   |   |   |
|                               |   | 3) 狭い仲間意識にとらわれないで、より大きな集団の成員であるという、自覚をもって行動する   | ○ |   |   |   |   |
|                               |   | 4) 悪を悪としてはっきりとらえ、決然とさける強い意志や態度をきづいてゆく   | ○ |   |   |   |   |
|                               |   | 5) 正義を愛し理想の社会の実現に向けて、理性的平和的な態度で努力してゆく   | ○ |   |   |   |   |
|                               |   | 6) 国民としての自覚を高めるとともに国際理解、人類愛の精神をつちかかってゆく   |   |   |   |   |   |
| 高等学校<br>社会科<br>社会<br>内容<br>抜萃 | 個人と<br>社会   | ○ 青年の問題：各人がもつさまざまな問題を通して青年期の特徴と意義および個人の価値を自覚させる   |   |   |   |   |   |
|                               |   | ○ 個人と社会のつながり：個人の成長と社会の発展とをもたらすためには、個人として如何にあるべきかを考えさせる。さまざまな倫理的意義の理解（人格と幸福、意志と行動、理想と現実、合理非合理）   | ○ | ○ |   |   |   |
|                               | 日本<br>の<br>社会   | ○ 日本の社会の特質<br>日本人のものの考え方とその問題点を考えさせる  |   |   |   |   |   |
|                               |   | ○ 身近な社会生活とそのあり方<br>家庭生活（親と子、兄弟、家庭内の問題）<br>学校生活（友情、先輩と後輩、教師と生徒の問題、規律と自治）<br>地域生活（風俗、習慣、就職、職業と趣味） | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 民族<br>的<br>社会                 | ○ 民族社会の理念<br>人権尊重、平和を通じて人間尊重の精神をつかます（幸福追求の権利、自由と平等）   |   |   |   |   |   |   |
|                               | ○ 社会と文化<br>文化の創造が社会の発展のために必要なことを明らかにし、生活における学問、芸術、宗教、思想などの意義を考えさせる<br>現代の日本の文化の諸問題を民主的な社会建設の立場から考えさせる |   |   |   |   |   |   |



|         |             |                 |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|---------|-------------|-----------------|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 本校生徒の心構 | 一<br>学<br>年 | ◦ 健全なる身体を養う     | ◎ |   |   | ◎ | ◎ | ◎ |   |   |   |
|         |             | ◦ 純真明朗          | ◎ | ○ |   |   | ○ | ○ | ○ |   | ○ |
|         |             | ◦ 協同友愛          | ◎ | ○ |   |   | ◎ | ◎ | ◎ | ○ | ○ |
|         | 二<br>学<br>年 | ◦ 真理に対し深い情熱をいさぐ | ○ |   |   |   |   |   |   |   |   |
|         |             | ◦ 謙虚に，努力精進する    | ○ | ◎ | ○ |   |   |   |   |   |   |
|         | 三<br>学<br>年 | ◦ 独立自治の精神       | ○ | ○ | ◎ |   |   |   |   |   |   |
|         |             | ◦ 個人としての人間完成    | ○ |   |   |   |   |   |   |   |   |
|         |             | ◦ 社会人としての品性陶冶   | ○ |   |   |   |   |   |   |   |   |

|          |  |   |   |                               |   |   |   |   |   |
|----------|--|---|---|-------------------------------|---|---|---|---|---|
| ◦ 学 年    | 1  | 2 | 3 | 1                             | 2 | 3 | 1 | 2 | 3 |
| ◦ 月      | 4  |   |   | 5                             |   |   | 6 |   |   |
| ◦ 備 考 欄  |  |   |   |                               |   |   |   |   |   |
| ◦ 主要学校行事 | ◦ ◦ ◦<br>新 遠 生<br>入 速 徒<br>学 足 会<br>学 足 発<br>足 |   |   | ◦ ◦<br>球 運<br>枝 動<br>大 会<br>会 |   |   |   |   |   |



|                                    |         |   |   |   |   |   |   |   |    |   |   |     |   |   |    |   |   |   |   |   |   |   |                   |
|------------------------------------|---------|---|---|---|---|---|---|---|----|---|---|-----|---|---|----|---|---|---|---|---|---|---|-------------------|
|                                    |         |   |   |   |   |   |   |   |    |   |   |     |   |   |    |   |   |   |   |   |   |   |                   |
|                                    |         |   |   |   |   |   |   |   |    |   |   |     |   |   |    | ◎ | ◎ |   |   |   |   |   |                   |
|                                    |         |   |   |   |   |   |   |   |    |   |   |     |   |   |    | ◎ | ◎ |   |   |   |   |   |                   |
|                                    |         |   |   |   |   |   |   | ◎ |    |   |   |     | ○ | ○ | ○  |   |   |   |   |   |   |   |                   |
|                                    |         |   |   |   |   |   |   |   |    |   |   |     |   |   |    |   |   |   |   |   |   |   |                   |
|                                    |         |   |   |   |   |   |   |   |    |   |   |     |   |   |    |   | ◎ |   |   |   |   |   |                   |
| 1                                  | 2       | 3 | 1 | 2 | 3 | 1 | 2 | 3 | 1  | 2 | 3 | 1   | 2 | 3 | 1  | 2 | 3 | 1 | 2 | 3 | 1 | 2 | 3                 |
| 7                                  |         |   | 8 |   |   | 9 |   |   | 10 |   |   | 11  |   |   | 12 |   | 1 |   | 2 |   | 3 |   |                   |
|                                    |         |   |   |   |   |   |   |   |    |   |   |     |   |   |    |   |   |   |   |   |   |   |                   |
| 1 2 3 。                            | 。       |   |   |   |   |   |   |   |    |   |   | 。   |   |   |    |   |   |   |   |   |   |   | 。。。。              |
| キ修補夏<br>ャン学修休<br>プ旅授業み<br>、行<br>登山 | 名大付高定期戦 |   |   |   |   |   |   |   |    |   |   | 文化祭 |   |   |    |   |   |   |   |   |   |   | 予卒春入<br>餞<br>会業休試 |

## (五) 指 導 計 画

第一学年：ロングホーム・ルーム指導計画

学年指導目標 健全なる身体を養い純真明朗を旨として、協同友愛の学校生活を送る

|        | 主 題                         | 指 導 目 標   | 指 導 内 容  | 備考 (主として行事)                    |
|--------|-----------------------------|---|--|--------------------------------|
| 四<br>月 | 本校生徒の心構え<br><br>(ホームにおける親睦) | 高校生活のあり方の指導   | <ul style="list-style-type: none"> <li>◦校風について</li> <li>◦生徒会活動について</li> <li>◦ホームルーム活動について</li> <li>◦自己紹介</li> </ul>            | 遠 足<br><br>生徒会発足               |
| 五<br>月 | 健全な身体の養成                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>◦生命を尊び安全の保持に努める</li> <li>◦不康不明</li> <li>◦協同友愛の学校生活を送る</li> </ul>                                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>◦保健衛生について</li> <li>◦スポーツマンシップについて</li> <li>◦球技大会(春季)を通して</li> <li>◦運動会運営について</li> </ul> | 球技大会<br><br>運 動 会              |
| 六<br>月 | 交際のあり方                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>◦正確適切なことばづかいや、能率的な動作ができる</li> <li>◦すべての人の人格を尊敬して自他の特性が生かされるよう努力する</li> <li>◦自由と規律について</li> </ul> | 礼儀, エチケットについて  |                                |
| 七<br>月 | 余暇の善用                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>◦時間の価値をわきまえ活用する</li> <li>◦純真明朗</li> <li>◦協同友愛</li> </ul>   | 夏休みの計画   | 夏 休 み<br>キャン<br>登 山<br>名大付高定期戦 |
| 九<br>月 | 自己をみつめて                     | ◦偽らない自己をみつめて、自己の生活をたてる  | <ul style="list-style-type: none"> <li>◦自叙伝を通じて反省する機会を与える</li> <li>◦夏休みの反省</li> </ul>  | 夏休み中に自叙伝<br>を書かしてある            |

|             |           |   |                                     |     |
|-------------|-----------|---|-------------------------------------|-----|
| 十<br>月      | 青年期の特徴    | <ul style="list-style-type: none"> <li>◦身体上の悩み</li> <li>◦青年期の自我意識の指導</li> </ul>   |                                     | 文化祭 |
| 十一<br>月     | 思索と生活     | ◦情操を豊かにし，文化の継承と創造につとめる  | 読書と勉学（読書法，読後の感想）<br><br>芸術，宗教などについて |     |
| 十二<br>月     | 個人と社会     | <ul style="list-style-type: none"> <li>◦家族員相互の愛情と思いやりと尊敬によって健全な家庭を築いてゆく</li> <li>◦狭い仲間意識にとらわれなくて，より大きな集団の成員であるという自覚をもって行動する</li> <li>◦公共的精神の養成</li> </ul> |                                     |     |
| 一<br>月<br>二 | 協同生活の喜び   | <ul style="list-style-type: none"> <li>◦仕事をすすんで行い，根気よく最後までやり抜く態度や習慣をつける</li> <li>◦純真明朗，協同友愛</li> </ul>  | 予餞会の運営                              | 予餞会 |
| 三<br>月      | 一年をふりかえって | 一年間を通じての自己の勉学生活態度を反省し来年度の決意をあらたにする  | ホームルーム運営の反省<br><br>春休み計画            | 春休み |

第二学年 ロングホーム・ルーム指導計画

学年指導目標 真理に対し強い情熱をいだと共に、あくまで謙虚に努力精進する

|        | 主 題         | 指 導 目 標                                 | 指 導 内 容                | 備考 (主として行事)              |
|--------|-------------|---|------------------------|--------------------------|
| 四<br>月 | 生徒会中堅としての自覚 | 高校生活の充実と発展<br>謙虚な心をもって他人の意見を入れて自己を高めてゆく |                        | 生徒会発足                    |
| 五<br>月 | 健全な身体の養成    | 一年と同様であるが、健全な身体を養う目的についての考え方を高めてゆく      |                        | 球技大会<br>運 動 会            |
| 六<br>月 | 両性の特質       | 友情と恋愛<br>男女両性の特質の理解                     | 男女の交際について<br>修学旅行中の態度  | 修学旅行準備                   |
| 七<br>月 | 余暇の善用       | 一年と同様                                   | 夏休みの計画                 | 修学旅行<br>夏 休 み<br>名大付高定期戦 |
| 九<br>月 | 自己をみつめて     | 常に真理を愛し、理想に向かって進む積極的な生活態度を養う            | 修学旅行の反省<br>夏休みの生活態度の反省 |                          |

|     |           |   |                    |     |
|-----|-----------|---|--------------------|-----|
| 十月  | 青年期の特質    | 各人がもつ様々な問題を通して、青年期の特質と意義及び個人の価値を自覚させる                 | 悩み、自殺              |     |
| 十一月 | 思索と生活     | 文化の創造が社会の発展のために必要なことを明らかにし、生活における学問、芸術、宗教などの意義を明らかにする |                    | 文化祭 |
| 十二月 | 個人と社会     | 個人の成長と社会の発展をもたらすために、個人として如何にあるべきかを考える                 |                    |     |
| 一月  | 協同生活の喜び   | 一年と同様であるが、中堅としての立場                                    | 予餞会運営について          | 予餞会 |
| 二月  |           |   |                    |     |
| 三月  | 一年をふりかえって | 一年と同様   | 生徒会運営の反省<br>春休みの計画 | 春休み |
| 四月  |           |   |                    |     |

第三学年 ロングホーム・ルーム指導計画

学年指導目標 独立自治の精神のもとに、個人としての人間完成に努めるとともに、社会人としての品性を陶冶する

|        | 主 題         | 指 導 目 標                   | 指 導 内 容                        | 備考(主として行事)    |
|--------|-------------|---------------------------|--------------------------------|---------------|
| 四<br>月 | 最上級生としての心構え | 独立、自治の精神<br>文、理科適性の把握     | 進路決定の資料を与える<br>(学部性格)          |               |
| 五<br>月 | 健全な身体の養成    | 二年と同様                     |                                | 球技大会<br>運 動 会 |
| 六<br>月 | 個性と進路       | 個性に応じた<br>大学はどれか<br>職業は何か | 大学の特色<br>入試問題の傾向<br>本校における就職状況 |               |
| 七<br>月 | 余暇の善用       | 最後の夏休みの送り方                | 夏期補習授業について                     | 夏 休 み         |
| 九<br>月 | 自己をみつめて     | 希望学部の決定                   | 夏休みの反省<br>学力、経済状況について          |               |

|             |        |                         |                          |      |
|-------------|--------|-------------------------|--------------------------|------|
| 十<br>月      | 青年期の特質 | 二年と同様                   | 恋愛と結婚                    |      |
| 十<br>一<br>月 | 思索と生活  | 人生の意義と目的を考える<br>人生観の確立  |                          | 文化祭  |
| 十<br>二<br>月 | 個人と社会  | 社会人としての品性陶冶<br>民族的社会の理念 | 人権尊重<br>幸福追求の権利<br>自由と平等 |      |
| 一<br>月      | 希望と自信  | 自己の理想と現実<br>社会の理想と現実    | 受験態度<br>入試不合格の対策         | 予餞会  |
| 二<br>月      |        |                         |                          | 入学試験 |

## (六) 実 施 例

### その 1

昭和33年7月8日実施

2年B組 担当 田 辺 啓 三

主題 余暇の善用 特に夏休みの計画について

目標 余暇の有効な利用法、余暇とマスコミとの関連、有意義な暑中休暇の利用法等について話し合いを進め、余暇善用についての心構えを深める。なお協同友愛の精神を培い、もって純真明朗な高校生としての生活を深めて行く。夏休では特にクラブ活動等共同生活が多く行われる。

- 準備
1. 教師とホーム・ルーム委員と再三協議し、主題の検討、運営の実際についての具体案を練る
  2. 生徒にも事前に題目を提示し、問題を考えさせておく。
  3. ホーム・ルーム委員と研究を重ねた結果、次の事項を調査する。
    - a. クラブ活動についての関心
    - b. 生徒会についての関心
    - c. 夏休みの計画
  - イ, 学習について      ロ, スポーツについて      ハ, レクリエーションについて
  4. ラジオ放送の録音「高校生の時間（夏休みを迎えて）」
  5. 運営の形式として、円卓形式をとり、座談会の方法で行う。  
司会者 二名 書記 二名 をホーム・ルーム委員が任命する。

運営 1. 余暇をどのように使っているか。

質問 余暇とは何か。 教師解答

イ, 日本人特有の余暇利用をしたい、たとえば茶の湯をたしなむなど

ロ, 庭で花作り

ハ, 鶏を飼う

ニ, 手 芸

ホ, その他は一般的な発言、新聞、ラジオ、雑談、読書

この間色々な発言ありなごやかなふんい気に包まれる、結局あまりまとまった余暇は現在の高校生にはあまり恵まれていない。

2. 余暇利用と関連して、テレビについての感想発表

イ, 自宅で持っている人は、番組を承知しているので観たいものだけ選択している。

ロ, あまり馴れていないので、なんでもみながっているようだが、時間の無駄が多い。

ハ, スポーツの実況などは、ラジオ放送よりはるかにおもしろい。

ニ, テレビの為に特に学習を妨げられる事はない。

3. 夏休みの計画、利用法について

イ, 録音の放送、運動部クラブの練習——計画性が必要

合宿の注意事項 —— 能率的な生活

キャンプ、登山 —— 経験者の指導と綿密な計画

交遊（特に男女間）—— 秘密を作らない

ロ, クラブの計画発表



野球，庭球，排球，サッカー部の発表このあたりやや沈滞気味な空気  
ハ、旅行の計画

広く見聞するために意義ある，数人で行く，本校外の友人がよい。  
大旅行は一人がよい。

ニ、キャンプ

綿密な計画が必要

ホ、夏休みのような長期の休暇中しか実行されない事柄

調査にあった事を発表，絵を描く，原書を読む，食生活の改善等  
この辺で再び活潑になってくる。

その他，勉強して実力をつける。日記の習慣をつける，自転車旅行，アルバイト  
教師のまとめ，楽しく意義のある夏休みを送るよう努力 以上

教師の方針と反省

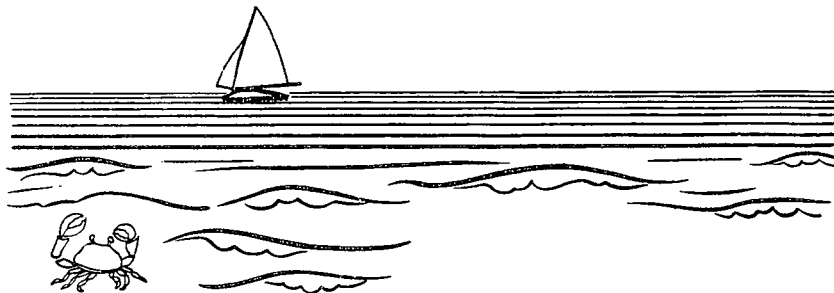
運営については，特に自主性を尊重し，積極的な生徒の発言によって進行するよう努めた。生徒の発言が少ない時は司会者が指名して意見を求めた。

生徒の発言 16名 男子 13名 女子 3名

発言回数の多い者 5回 1名 あとは 2，3回が多い。

教師は問題の解釈が違った場合，発言が停滞した場合，結論を必要とする場合等，特殊な事態が発生した場合にのみ発言するようにして，できるだけ生徒自身で処して行くように努めた。

今回は座談会で問題の提出もなく，各自の生活と意見を聞きあって，自己のとるべき方法を考えてゆくようにしたため，結論的なものはどこにも生じなかった。また議題が普遍的でなく，自分一個に関する問題が比較的多かったため，いつもより発言回数も少なかったように思われるが，当初心配していた程低調でもなかった。



主題 個人と社会（十二月の課題が都合により繰上げ実施）

目標 進学と就職を間近に控えて、ややもすれば閉ちこめられた様な空気の中に沈んで行こうとする現在の生活の中で、生徒心得にも示されている

“個人としての人格の完成に努めると共に、社会人としての品性を陶冶すること”に関心をもたせ、自分たちの置かれた青年期の自覚と共に、社会の一員として、身近かに起ることが予想される道徳的生活についての実情をみつけ、少ない経験からではあるが、可成り蓄積されている筈の批判的精神を通して、自信のある判断と善行への憧憬、実践への意欲を堅持させる

準備 1. 社会科社会を指導された先生と相談し、生徒の話し合いの問題として適当と思われる課題を幾つか作り、その中で、次の様な主旨にあう課題を作成、プリントして生徒に渡す。

イ、青年期の特色と陥りやすい欠陥

ロ、道徳の本質

ハ、封建的道徳観念

2. 時間の運営については、ホーム・ルーム委員と相談し、

イ、委員が司会

ロ、10名位を予め指定して最初の意見を出す様にさせ

ハ、司会により、全員参加の方法をとることにした

ニ、机の配置はコの字型にする。

運営 1. 本日の連絡と要望事項（平常通り、教師）

2. 本時の趣旨説明（教師）

イ、疑惑、なやみの多いこと、と追求精神——生徒の置かれている位置

ロ、生徒心得の趣旨提示

ハ、世間によくきく成功、立身出世、恩義など——どう考えるか

3. 話しあい（司会、生徒、教師——とくに誘導）

課題のねらいと反省

1. 課題……次頁

2. ねらい

(1) 課題 1～5

イ、なやみ、まよい、不安、反抗は、青年期共通の特色であることを知り

ロ、自己発見→社会の認識→人格的要素を通す必要

ハ、絶対性への憧憬は、誤りやすい欠陥を含むことの確認

(2) 課題 6

道徳の本質についての認識を深める

(3) 課題 7, 8

封建的習俗や道徳観念の代表的な具体例を通して、流されやすい現実の生活の中で、自己の考え方についての確信を得させる。

3. 反省

イ、予め各課題についての話し合いのポイントを上記の様に用意したが、飛び出してくる意見は、就職と勉学、幸福な生活、政治的社会など具体的な問題が多く、予期した様な促え方がむつかしく、本質的な問題点へ導き、これが青年期であると結語するための挿入（教師）が、しばしば行われて来た。

ロ、道徳の可変、不可変の問題には、大きな関心もたれ、絶対的・道徳への確信が強い意見で示され、“ぬすみ”などの例も出て、相当多くの予定しない生徒の発言が多く、この課題は、適当な例が示されれば一時間で有効に討議される内容をもつものと考えられた。

ハ、課題7、8の問題点は、本時に於ては実施されなかった。（別に一時間を設ける予定）

ニ、幾つかの課題で一つの結びを予定するような問題構成は、司会との事前打合せが余程適確でない限り、不成功に終るのではないかと思う。むしろ可変、不可変などの大きな一つの課題を通し、発言される内容の中で適宜選びながら、誘導する方がよいのではないか。

ホ、あくまでも、身近かな、具体的な問題を通してでないと、参加生徒の興味と関心は期待できない。

#### 4. 課題

- (1) 諸君たち青年は、常に何かを求めて不安な日々を遍歴しているようであるが、一体、青年は何を求めようとしているのだろうか。
- (2) 「自分」を眺め、考える場合、どのような態度が必要だろうか、絶望や不安に時々見舞われ、苦しむ時がしばしばであるが、それは何故起るのだろうか。
- (3) 現実の社会が要求する、「課題」と「義務」に熱心に対処する反面、心の中にはあらゆるものに対する（親、師など）強い反ばつが二重人格者の様に去来していないだろうか、又、特殊なもの（人）に対する親密感や、憧憬の気持が起らないだろうか。

何故起るのだろうか　　： 良い傾向だろうか　　： 何が必要であろうか

- (4) 理想的なものを追求してやまない青年のひたむきな努力は美しい。しかし、道徳的な生活の面に、これを求めた場合、往々に、みぢめな場合に遭遇することが多い。そのような場合の「空しさ」に対して、どのように考え、対処したらよいか。
- (5) すべての生活の面で、とくに道徳的な面で絶対的なものを信じ、実現しようとすることは生活を正しく導くだろうか、如何なる傾向の人が絶対化に進むのだろうか。
- (6) 我々は我々を支える経済や政治、或はそれらに関連した「法」の存在以上に道徳的体験が生活を豊かにしていることをおぼろげながら知っているが、この場合、その道徳は一体不可変のものなのだろうか。次の様な考えはどうか。

イ、社会が変れば道徳も変る。

ロ、どんなに社会が変っても道徳は変らない。

ハ、変る道徳と変らない道徳がある筈だ。

- (7) 「青年に期待されるものは大きい」と言われながらも、「学校で学んだことは社会では役に立たない」とよく言われている。

　　： どのような場面に出会うだろうか

　　： それに対して如何なる考え方や態度を示すべきだろうか。

- (8) 「孝、恩、義理人情、顔、耻、立身出世、成功」などについてどのように考えたらよいだろうか。

主題 自己を見つめて

目標 青年期は自己模索の時代と云われている。この期にあたりホーム・ルームで「自己とは何か」という問題について互いに討議しあう事は無意味なことであるまい、しかし単に「自己」という抽象的な問題についてのみ討議することは、議論の空まわりに終る恐れもありよし結論めいたものがでたとしても生徒にとりあまり意義あるものとはなるまいと思われる所より、先づ具体的に夏休中に宿題として課した自叙伝及び夏休みの反省文を通して自己というものを見つめさせようと考えたわけである。

準備 夏休み中の宿題として下記のを課した。

1. 自叙伝 400字 原稿用紙 30枚以上
2. 夏休みの計画と反省 400字 2～3枚程度
3. 日記

自叙伝はここ数年来国語科として毎夏休み1年生全員に課してきたものである。毎年の例であるが最高200枚平均50～60枚程度のを提出している。夏休みの計画は休みに入る前に出来るだけ守れる程度のを立てる事を注意し、反省は二学期早々に級の全員に提出させた。

日記は提出を自由としておいた為に数名の者が提出しただけであった。以上のものを資料として、更に下記の如きプリントを実施前に配布した。

○自己を見つめて

僕等は何の為にこの世に生れて来たのだろうか、また何をすればいいのだろうか、古聖は「汝自身を知れ」と云ったが「汝自身」の正体はそもそも何物であろうか。

漱石の「夢十夜」の中にこんな話がある。

「黒い大きい船に乗っている。此の船は何処から来て何処へ行くのか分らない。船員に聞いても知らない、乗客の中には欄に倚って泣いている人もあれば楽しそうに歌っている者もいる。或は一生懸命に星を見ている天文学者もいる。自分は何の目的で何処へ行くのか分らないような船に乗っているのは苦痛だ詰らないことだと思ってとうとう死を覚悟した或夜舷から飛んだ。飛んだ瞬間「しまった、何処へ行くか分らない船でも矢張り乗っていたらよかった」と思ったがもう駄目だ、足は一刻一刻水に近づく両足をちぢめても仕方がない。今に水につくかと極度の不安に襲われた瞬間に夢が覚めた」

実際“自己”の正体をつかむという事は容易でない、しかし少しでも自己の正体を知ろうと努力する所に生きる価値があるのでなからうか、生きるという事が単に呼吸し物を食べるという事だけでない、自分で自分の生活を工夫し創造してゆく事にあるのでなからうか。君達はこの夏休みにそれぞれ自叙伝を書いた。また夏休みに入る前に夏休み中の計画を立て終ってその反省文を書いた、そして自己の過去をふりかえり明日への決意を新たにしたことだろう。

今日のホーム・ルームは“自己を見つめて”という大きな課題であるが、先づお互いに夏休みの反省という身近な問題について話しあう事によって、この課題の糸口をみつける事

にしよう。

○夏休みの反省

1. 休み前に立てた計画はその通り実行出来たかどうか。
2. 出来なかったとすればその原因はどこにあったか。
  - イ、計画そのものに無理があった
  - ロ、心の持ち方に原因があった
  - ハ、環境に原因があった
  - ニ、その他
3. 計画通りにやれた人達の話を読み見る。
4. 夏休みに得たものとして次の事項に分けて話しあって見る。
  - イ、自然から
  - ロ、人から
  - ハ、読書から

○自叙伝を通して

君達の書いてくれた自叙伝を読んで痛感した事は、君達の生いたち、当面する問題、将来の目標、更に不安や悩みなどについてありのままにさらけ出してくれていた事だった。偽らざる自己をみつめて書かれた自叙伝ほど尊いものはない。そこで君達の自叙伝に共通しうかがえる次の事項についてお互い話しあってみることにしよう。

1. 高校生としての生き方について
2. 劣等感について
3. 自己と幸福について
4. 悩みについて
5. 異性との交際について

参考の為に提出させた反省文を任意に数篇選び要約してプリントしてみた。

○夏休みの反省

A, 私の学習上の計画が大雑把であった所為かも知れないが、私は余りその実行に苦痛は感じなかった。併しその半面、計画の内容そのものに対する疑問に悩まされ続けた。こんな事をやっていて力がつくのだろうか？絶えずこう怯え乍ら過してしまった。休み前には書物を多く読もうと思っていた。文学作品の大作をずらりと並べて読みたいと思ったのだが、休みは案外短かった。併し乍ら“田園交響楽”を読み終えた時“狭き門”の感激に再び襲われた。それ文でも収穫だと思っている。夏休みを野に放された獣の如く送りたいと思っていたから一。

B, 今年の夏休み程有意義に過した夏休みはなかった。よく遊びよく勉強して完全とは言えないまでも、自分の理想に近かったことは確かである。中学校の生物クラブと海へ行ってきた、そこで僕は今までとは違った自分を発見した。人に率先して物事にあたった。勉強の方も、幾何、代数、英語等を主にして1日9時間ほどやったが、その成果はあった様思う。

C, 休み前には、別に綿密な計画を立てなかったが、大よその計画だけは立てて夏休みを迎えた。勉強は七割、運動及び遊びは八割程度実行できた。勉強の三割が実行できなかった原因は要するに実行しようという精神に欠けていた為と反省している。しかし僕としては

今までの夏休み中、最高の夏休みだったと思っている。夏休み中に得たものもこれといてないが、少し店の手伝をして商売のむつかしき、人を使うことのむつかしさが少しわかった事かも知れない。

D、今まで、夏休みになると、盛たくさんの計画をたて失敗をくりかえして来たので、今年目標を二つにしぼって実行することにした。一つは理数科の実力養成一つは体力の増進であった。ふりかえつてみて、この目標は達成されたと思っている。色々やりたいたいが、その中で自分に最も必要と思われるものを選んだ事がよかったと思う。ただ今にして思えば、休み中に一冊も本を読まなかったことを後悔している。二学期に入って“次郎物語”を読みはじめたからだ、この一つが残念でたまらない。私が休み中に得た最も良い物は「冷静」「実行」「意志」の三つのものだった。

E、二学期に備えて大いに体をきたえる事を第一の目標にした。朝食前の散歩、家の手伝い海水浴、毎日規則正しい生活を送る。しかしこの目標も、色々な都合で中々守ることができなかった。学習の面では、幾何の成績が悪かったので、一学期の復習をやり、更に二学期のはじめの部分の予習しておくこと。また英会話の力をつける為にNHKの放送を聴くことも加えたが、これは大体に於いて実行できた。映画“なら山節考”を観たが、親子の愛情、生と死について深く考えさせられるものがあった。読書といえば、志賀直哉の“暗夜行路”O.ヘンリーの短篇を読んだ。

F、計画は終業式の後立てた。例年の如くあまり細かく立てすぎると予定がずれてくるので今年は楽な気持ちでとりかかったが、やはり欲張りすぎたようだった。夏休みが終って痛感した事は、平凡なプランでいい、それをあくまで実行する事だと思った。

G、結論から云うと大失敗といえる。原因は計画表の失敗にあった。あまりに欲張りすぎた為に十日もすると、机の前に座り、この計画表を見てもううんざりして鉛筆をもつ気がなくなる程だった。とうとう終り近くまで宿題に追われ通して二学期の予習などにはほとんど手がのびずじまいだった。ただ遊ぶ面に於いては大いに利益があった。

H、今年の夏休みほど無計画な夏休みは今までになかった。事前の計画らしい計画は全然立てず、ただ頭の中で、大ざっぱに二三の目標を定めたにすぎなかった。学習の方は一応一学期の復習をするつもりでいたが相当ぬけた。しかし数学、化学、英語は心掛けたので案外進んだ。気象の観測、天体の観測など好きな方面は充分にやった。読書では漱石の“三四郎”実篤の“友情”の二冊、それぞれに面白かった。兎角今年の夏休みは無計画であったが、一番楽しい興味本位の夏休みであったと思う。

I、遠大な計画を二、三日を要して仕上げた。24時間をきっちり区切って夏休みを迎えたのはよかったが、あわれなるかな実に学校の宿題すらもすませなかった。できなかった原因は勉強する気にならなかったこと、即ち目標もなく、ただ何となく勉強するので、不安定で、かつ能率があがらなかった。ただ読書だけは十分できた。“緑のハイリッヒ”以下20冊近く読んだことは一応収穫だった。中でもヒルテイの“幸福論”は色々考えさせられたものだった。

運 営

問題の性質上、担当が座長をつとめる事にし、座席をコの字型にして話し合いしやすい様

に工夫した。

### 反省

先づ話のきっかけを作る意味で座長の夏休みの体験談をきかせ、二三人に指命して話合いいに入っていった、ほとんどの生徒が夏休みに入る前にそれぞれ工夫して計画を立てた様だったが、結果はほとんど守れなかった事を歎いていた。そこでその原因について別紙のプリントの如く(2)イ、ロ、ハ、に分けて考えさせた所(1)の環境に原因があった者は母親が病気であった為に家事に追われた女生徒一名、親類の者がずっと遊びに来ていた為に出来なかった男生徒一名の二名だけで、あとはすべて別紙プリントにも要約してある如く(イ)、(ロ)が原因であった様であった。

(イ)の計画そのものの無理が原因と反省している生徒全般に通じて云える事は、あまりに綿密な計画を立てすぎた為に、予定しない出来事で一日、二日と予定がくるってしまった事、また、(ロ)の心の持ち方とも関連してくる予定を眺めているうちに意欲をなくしていった事などを反省していた。(ロ)の心の持の原因がこれだけ単独で現れてきている生徒は比較的少く、大抵は(イ)(ロ)が共通している場合が多かった様であるがごくわずかに夏休みに入って全然勉強の意欲がおこらずただ無為にすごしてしまって、終り近くになってあわてた生徒がいた事は、入学以来勉強に追われて休むひまのなかった反動かも知れない。また計画通りに、理想的とまでいかぬが満足できる程度に実行できた生徒の計画は大抵、細かく時間を区分する事なく、一週間きざみ、とか午前、午後に分ける程度の計画を立てその範囲内で守る様つとめた様だった。

次に夏休み中に得たものについて話し合ったが、学校行事として登山(立山及び白山)キャンプ(四日間)があり、大体の生徒がそのいづれかに参加しているので(イ)或は(ロ)はこれらの行事から得た者が大多数だった。

その他旅行して見聞をひろめた生徒、田舎で久し振りに中学時代の友人と交際した生徒等、いづれも学校の友達以外の人と広く交際していた様であった。

(1)の読書から得たもの、これは夏休み中できるだけこれまで読まない種類のものをば広く読書をする様にすすめておいたので大抵の生徒が何等かの収穫を得ている様であった。その中で特に目立ったものは、聖書を読んだ生徒が一人、毎日一冊平均で読了した生徒が一人、他は休み中に数冊読んだ様であった。

次いで本題、自叙伝を通して自己をみつめる課題に入っていったが時間がなく、わずかに劣等感の問題と異性との交際について担当が説明する程度で終って次次のホーム・ルームで具体的に話し合う事にしたので、この報告は一応この辺でとどめておく事にする。



## 主題 青年期の特質

目標 青年期は「第二の誕生」といわれているように、身体的にも精神的にも大いに発達をとげると同時に、非常に不安定な時期である。

また、青年期は、自我発見並びに自我拡張の時代である。今まで外界のみをみつめていた眼が、自分自身をみつめるという、大きな転換が行なわれるが、大多数の場合、その転換は反抗の型をとってあらわれる。かような精神的不安定は、外に各種の悩みとなって表われるが、この多種多様な悩みこそ、青年期の特質とみてよいであろう。

かような状況において、生徒自身が何を考え何を欲しているかを知り、それに対して適切な指導を施すことが、生徒の生活指導上、最大の急務と考えられる。ここにおいて、生徒相互の話し合い、教師と生徒との話し合いが必要であり、直接に生徒の要求を満たす主題について、話し合いの機会を作ってみた。

なお、身体的発達については、既に1時間を設けて、学校長の講話を主体として話し合いを行っている。

準備 1. 教師とホームルーム委員とで協議し、主として運営の方法などについて具体案を練る。

2. 事前調査として、現在生徒個人が考えていること、悩んでいることを記述して提出させ整理した。そのうちから、青年期における諸問題として、主に次の四つをとりあげることとした。

劣等感、交友関係、他からの干渉、孤独感

3. 生徒に計画を事前に話し、問題を考えさせておく。

4. 司会者と書記を選出しておく。

運営 1. 本時の趣旨説明（司会者）

生徒自身の共通な悩みを話し合い、それぞれどのようにして解決しているか解決しようと努力しているかを話し合い検討する。

2. 共通な悩みの一つとして、他からの干渉の多いことがあげられた。

A 「朝起きる時、自分ではわかっているのだが、やかましくいわれる」

B 「いわなくてもよくわかっているのに、試験の時などに親から干渉される。」

C 「両親との考えが、将来のことなどについて、くい違いがでてくる。また兄弟と自分とが比較されたりして困る。」

その他、具体的な発言が多かったがCにうかがわれるように、劣等感をもっているとの発言をする者が多くなり、その結果、この問題について話し合うこととした。

3. 劣等感の解決には、いろいろと発言があった。

D 「劣等感是谁でも持っているのがあたりまえである。劣等感は優越感でなくしていったらよいと思う。」

E 「劣等感クラブへ入ったり。他の仕事をしたりして、まぎらわしたらよい。」

F 「劣等感をもつ相手に競争心を起して勝つようにしたらよい。心の持ち方の問題だから、他人にまさる面をみつけたらよい。」

G 「他人と競争すると考えるよりも、他人のよい面をとるようにしたらよい。」

H 「劣等感は思い過ぎである。みんなに批判してもらえるようにしたらよい。」

I 「クラブや友人によって劣等感をなくするようにするとよい。」

この話し合いのうちに、劣等感の積極的な解決のためには、クラブに入って興味



を同じくする者と交わるとか、あるいは、いろいろと話し合える親友が必要だと  
の結論に達し、次に、友人関係、友人との交際のあるべき姿について話し合うこ  
とにした。

4. 親友について、どのような友人を持ったらよいか、どうして求めるか、どうい  
う交際をしたらよいか。(異性との交際も含む。)

J 「ほんとうの親友はできない。どうしても利害関係がつながる。」

K 「雑談をするだけでよい。一対一よりもグループの方がよい。」

L 「利害関係が入るのは本当の親友ではない。」

M 「親友は、ライバルであった方がよい。」

N 「どのようにして親友をつくるかが問題だ。性質が違っていても親友になれる  
きっかけが重要であり、それをつくるために、クラブへ入ったりするとよい。」

O 「親友の条件は、秘密を守ってくれる人。」

P 「きっかけよりは心のもち方が重要だ。」

Q 「相手の心を知って、自分を相手に合わせるとよい。」

R 「広い交際によってできる。性質が似ている時にできる。」

重要な問題であり、生徒がいつもよく考えていることなので、非常に活潑な論議  
が行われた。前のいろいろな問題については、直接本時には結論はでなかったが  
その一つ一つが非常に重要な問題と思われる。

#### 5. 教師の所感

本時の問題点について、教師から次のように簡単に所感を述べた。両親その他か  
らの干渉は多いかもしれないが、どんなことでも、聞くべきことを聞いてから行動  
せよ。いたずらに反抗することなく、納得のいく方法で話し合うとよい。

人には必ずよいところがあるものだから、自分のよいところをみるようにすると  
よい。そして、そのよいところを伸ばすと共に、足りないところを補っていく。自  
分の長所について、自信を持って行動せよ。

親友の要素としては、同質なものと異質なものとがある。親友間には話し合いの  
機会を多く持つようにする。同質の要素は強め合い、異質なものはそれを止揚して  
高め合うようににする。そこから結論あるいはそれに近いものが生れてくるだろう

将来の問題(進学就職の問題)は後に機会をみて話し合いをしたい。

反省 直接の運営については、司会を生徒のホーム・ルーム委員が行い、すべて、生徒の  
自主的な運営に委ねた。しかし、特定の少数の生徒の発言に左右されることを考えて、  
発言は、名簿に従って任意抽出的に指名することもあった。その結果、発言者数はホー  
ムルームの約半数に及び、回数の最高は一人6回であった。また、女子生徒の発言もな  
かなか活潑だった。

予定では、青年期の自我意識の指導を目標にしていたが、あまりにも問題が大きく、  
話し合いの具体性に乏しかったので、生徒自身の直接感じている悩みを主としてとりあ  
げてみる型となった。そのため、目標からみてやや焦点がずれた感があるが、生徒の関  
心を集め、しかも各自が自由に話し合えただけでも大きな収穫だったと思う。

また、本時の話し合いでは、討議の結果としての結論は何ら得られなかったが、運営  
の方針としては、必ずしも結論を出すことを要せず、常に継続的に討議する環境を作り  
出すことにあり、この点においては、非常に活潑な討論を行ったことのみでも結構だ  
ったと思っている。

与えられた一時限が非常に早く終り、大問題をことごとく話し合うことはできな  
かったが、有意義な時間であった。

なお、この記録は、生徒の書記の記録によるところが多い。御承知を願う。

題目：思索と生活

準備：非常に漠然とした、抽象的な題目であり、生徒もその意味をはっきり把握するのがむずかしいと思われた。ホーム・ルーム計画の指針には、「宗教、学問、芸術の重要性を考え、人生との関係をつかむ。」という意味のことが書いてある。しかしはじめからこのような大きな概念を対象にしては、自分達の体験から浮きあがってしまって、直接的な把握がむずかしく、観念的に流れてしまうと思われたので、先ず身近かな所からはじめて一日のうちで勉強の時間とは別に、思索する時間があるかどうかを問い、その内容を互いに発表し合った上で、出て来た問題について話し合い、生きることの意味にまで考えを進めてゆけたらゆくことにした。討論会の司会をする生徒を呼んでその旨を伝え、途中で困ったらHRAの助言を求めるように言った。このクラスは9月にも一度討論会を持ち、「恋愛について」と題して、ある程度の深いところまで突込んだ討論をすることが出来た。それで今回も生徒の活潑な発言があるものと期待したので、特別作文を書かせてそれをまとめて資料とするようなことはしなかった。しかし、クラス内には発言をあまりしないものもいるし、その題目についてある程度考えさせるという意味もあってそうしたことをあらかじめ行って、注意を喚起し、心の準備をさせた方が、より効果があったであろう。これは参観された先生方よりの評であり、私もそう思う。

HRAの心算りとしては、生徒の発言は一人一人自分の体験（読書から得たものも含めて）をもとにして行われるわけで、相当に個々別々で、一つの方向にむかったものとはなかなかならないことが予想されるので、発言の出尽くした所で、なるべく多くの発表をまとめて、一つの方向、すなわち「生きることの意味と、学問、芸術、宗教の関係」の思索へと導びいてゆこうと思った。

討論会の経過：最初、発言が色々なされたが、まとめてみると大体次のようになる。

考えの内容

- 自分の将来のこと。
- 大学入試について。
- 自分のなした失敗についての反省。

考える時間

- 学校への行き帰り。
- 通学の車中。
- 自宅で、勉強に疲れたとき。

ここまでの段階では、まだおよそ「思索」とは縁遠い事柄について単に考えているにすぎないが、やがて「何のために学校で勉強しているのか」、「大学で勉強して何になるのか」という疑問を提出するものが出て来て、そろそろ人生論的な発言がではじめた。たとえば、「生きるということの目的は、結局個体維持と種族維持である。そして生きていくということはこわしながら造る過程である。」という発言があった。前半はともかく、後半の「こわしながら造る」という部分はクラスの生徒の中には、解らないものもいたのではないかと思われた。又宗教に関心を持ち、HiYにも関係をもつ生徒から

「我々は食べるために生きるのではなくて、生きるために食うのである。生きることは他に奉仕することだ。」という意味の発言があった。これに対して、「いや我々は食べるために生きるのだ。」という生徒が意見を出し、対立するかと思われたが、結局「食べる」という意味を問いつめられたら「楽しむ」という意味であると答え、さらにその「楽しむ」という言葉には「世のため、人のために尽すと楽しい。そういう意味の楽しさも含まれる。」というに到って、奉仕の精神を説いた生徒と、言っている内容は同じであることが解ったので、HRAとして若干の注意を与えて、本すじに討論を戻した。討論をする場合、注意しなければならないのは、言葉の定義がくいちがつたままでお互いに説を譲らない場合に、結局言っていることは同じなのに、言葉だけが対立して、水掛論をしていることがある。このようなことがないように心掛けるべきである、時間の浪費以外の何ものでもない。

その後色々見解の発表があったのをまとめる意味で、時間もそろそろ終りかけた頃、HRAが発言を求めて、一応の結論をつけてみた。

結び：話が抽象的、観念的になるのを避けるため、シュヴァイツァー博士を例にとり、次の様にまとめてみた。

「文化とは思索することである。」というのはシュヴァイツァー博士の言であるが、現在の社会状況を見ると、マスコミの波に押され、感覚的刺激に馴れて、自らの判断力さえ失いがちな人が多い。こういうときにこそしっかり自分自身の考え方に根ざした深い思索によって、自己を発見し、生きる意味を考えていくのが重要であろう。博士の生の哲学は、生命の尊さへの限りない崇敬の念を根底としている。これはさっき発言のあった、「生きることは個体維持と種族維持である。」という考え方と関係を持つわけで、博士はその実践行動として、30才にして医学を志ざし、今アフリカの奥地で原住民のために身を捧げている。「人は生きるために食べるのでああって、生きるとは他に奉仕することである。」とする考え方も、ここに見事に実践されている。

それでは、学問、芸術と生活とはどういう関係を持つかということ、それは、「生を拡張し、充実させるもの」として意味を持つものようである。人間はこの地上に生れでて、いくばくもなくして死ぬ運命にある。同じ生きるのならば、意義深い生き方をしたいものである。豊かな、充実した、立派な生き方をしたい。そこに学問への意欲が生れ、詩、音楽、絵画等芸術が意味を持って来るのである。ここでも博士の生き方を見てみよう。彼は神学博士の称号を持ち、バッハ研究家として世界的に有名である。又オルガニストとしても、有名で、そのバッハ解釈は最高の権威を持っている。黒人の病気を治療し、彼らの生活の改善に専心するかたわら、彼の唯一の楽しみは、自ら組み立てたパイプオルガンで、心静かにバッハを演奏することだそうである。ここに我々は、偉大な人生観、使命感を抱いてそれを生活に実践し、深い学問と豊かな芸術によって自らの生をたかめている人間の巨大な例を見ることが出来る。勿論我々は他人の人生観をそのまま、自分のものにするには出来ない。他人に代って生きてもらうことは出来ないのと同じことである。一人一人が自らの体験、読書、思索を通して自分自身の生きてゆく途を見出してゆかなければならない。偉人の伝記などはそのための読書には適しているのではないだろうか、今日の討論会も諸君の思索の一つの援けとなれば幸である。

## 主題 青年期の特質

特に友情、恋愛、結婚について

目標 本校ホーム・ルーム指導計画案に従い、三年生の十月の主題である〔青年期の特質〕をとりあげ、特にその具体的目標を友情、恋愛、結婚とした。即ち青年期の諸問題の中で異性の問題は最大関心事であり、かつ高校一年からの発展の帰結として三年生としては当然恋愛問題にまで言及せねばならぬものであろう。ただ実施の可否、方法の如何についての問題があるわけであるが、今回は試みとして上記の題目を正面からとりあげて見た。本時の究極目標とする所は高校上級生の男女間の正しい認識を得るということになるが、結論がたやすく予想される性質の問題ではないから、討議の過程、即ち従来の暗黙の了解事項を健全な話し合いの場にのせるということの意義もふくめて良いと思う。

## (付 記)

特に留意した事項

1. 受験期にある男女生徒であること。
2. 素直な話し合いの場ができるように指導すること。
3. 作文に現われている男女間の思想の差を円滑にすること。
4. 個人の主観のあつまりである資料プリントから、クラス的なまとまりのある意見が生れるか否かということ。
5. 指導者としては特定の主観を主張せず、個々のケースの指導は従来も個人ガイダンスの形で行なってきたことを知らせる。

準備 生徒には事前に主題を示し、各自の意見を400字詰原稿紙一枚にまとめさせた。尚その際に導入として、ホーム・ルームテキスト(3)(特別教育活動研究会編)の「男の立場、女の立場」を読んで紹介しておいた。また感想文は無記名提出とした。

提出された感想文42通につき、主な意見をそのままプリントしたもの、及び担当者が要約した他の意見を資料プリントとして作成しこれを事前に配布して討議の資料とした。従って所要時間数は計2時間となった。

運営の形式は円卓形式、司会者は生徒中から選んだ。

## 運営案

## イ、担当者の導入

恥かしがらずに率直に発言を希望する旨を述べる。

## ロ、司会者の注意

大体予想される討議題目として次の諸項をあげた。

1. 友情と恋愛の関係
2. 恋愛感情に対して肯定的なものの意見、及びその反論。
3. 恋愛感情に対して否定的なものの意見、及びその反論
4. 現実の制約(例えば受験勉強)に対しての態度について。
5. 恋愛と結婚
6. 結婚の意義

ハ、担当者のまとめ。

[資料プリント]

A [三Cの意見] 担当者が要約したもの、

恋愛ということばは唐突に感じられて返事ができぬというタイプの人々が少数ある。これを異性に対する慕情であると言っている人もある。それらの感情は友情とははっきり別であるという人と友情は必然的に恋愛に発展していくとする人とある。〔以下○印は引用文〕

- 友情から恋愛へと育てて行くにはまわりの人の温い心が必要である。
- 友情と恋愛とは別である。特にこの学校では異性間の接触は殆んど無であるから一度友情としての交際が始まるとお互に珍しく感じて相手を好きになる。
- 友情と恋愛とを混同する者は経験のないものである。
- いつでも美人に会うと好きになる。

さて恋愛感情が存在することを否定した人は一人もいないのだが、とるべき態度は自ら分れて二つあるようである。その中肯定的な意見は、

- 人格形成にあたって異性と交際し恋愛するのも一要素であると思う。
- 大学受験と恋愛とは必ず両立すると思う。
- 私は結婚は必ず恋愛から入るべきものだという信念をもっている。
- 恋愛の動機は色々あるが性欲からの恋愛は純粋でないと思う。

以上の意見は純粋であり美しい。或人は(最上の美女はすなわち理想の女性)と言う。そして、結婚に対してきわめて真面目に(何度もするようなものはしたくない)と言い、学生結婚を(妙な奴等)と呼び、共かせぎ大賛成であり、又大反対である。つまり、結婚に対しては観念的な考え方を出ておらず、まだこれは小説の中の事件であるようだ。

次に否定的な意見はと見ると

- 自分は相手から愛されるのが恐ろしい。自分は愛に値しない人間だと思う。
- 恋は単なる本能にすぎない。
- 無駄な熱はあげぬことにしている。
- 結婚は本能的なものであって単に本能にまかせて何のちゅうちょもなく結婚している者は小人だ。今の大人はすべてそうらしい。
- 恋愛不用、恋愛はまさに小人のなす所なり。
- 結局現在は恋愛だなんて言っているのはすべて空しいのであって、一生の伴侶はそう単純に定まるものではない。

以上の意見の中には、コンプレックスによるものとストイックな考が特色としてうかがわれる。

次に目下受験勉強中という制約に対しては真剣に考えた結果、次のような否定的見解が多数を占めることが注目される。

- 恋愛と受験とは両立しないと思う。
  - 恋愛など大学へ入学してからのことだ。
- さて結論的なものとしては
- 人間はあくまで理性的であり理論的であって真に人間的であり、肉体をはなれたいや少くともそう努力している姿が望ましい。僕たちの世代はそういう気持で恋愛することが必要なのではなかるうか。

○高校生としては互いに楽しく口がきけ、自分の気持が話せる位が最良で又限度だと思  
う。

更に補足的なものとして

- 異性と交際しながらも成績優秀な人を知って信念がぐらついた。
- 友人から恋愛の相談をうけて困惑し、異性のことが考え直されてきた。
- 両性が交わりたいという気持があるから学校側の指導が望ましい。

## B 個人の意見（全文）

### (1) 「我々は恋愛の境地へは未だ達していない」

我々高校生達は或る者が異性の特定の或る者に気を引かれる様な事は誰でもいつかは経験する。その場合一体何故に目を引かれるのか？と考えると“多分どことなく”と答えるだろう。ではその“どことなく”という事の奥には何かあるのだろうか。恐らく何もないのではあるまいか。それでいて目を引かれる、これは矛盾の様である。しかし我々の年齢に於てはこんな事が多い、ではこんな薄っぺらな感情がどうして起るのだろうか。それはやはり数年前に初めて異性を意識出したその時からやはり意識と反省とを越えた世界で異性を求めていたのではなかろうか。それが偶然を契機として少し表面化したのが先に述べた矛盾ある状態となるのだろうか。この故に私はこの漫然たる気持を敢て否定せぬ、これが身体精神の発達に伴って更に進んだ或る特定の異性のこんな所が好きだと言う事の出来る状態へ更には恋愛へと進むのではなかろうか。

(2) 僕には真の恋愛とは何なのかまだよくわからない。だから僕が今迄に持っていたいくつかの経験が恋愛という名で呼びうるものなのかどうか判然としない、しかしもしそれらが恋愛に近いものであったとすれば、僕は恋愛とは一種の病気じゃないのだろうかと思う。僕の経験したそれらの心理状況は全く発作的衝動的一時的なものであった。僕には長い間一人の人を思い続けるということは出来なかった。何日も悶々として思い続ける様な事があっても少したてばその人の顔を見ても何らの感がいも持たなくなってしまう、自分は浮気っぽい人間なのかと思うこともある。しかし今の僕はこう考えている。現在の自分は恋愛を真剣に考える様な立場に立っていない。受験受験で追いまくられている自分にとっては到底積極的な行動に出る事は出来ない。美しい人を見てはロマンチックな空想をして見る。しかし畢竟それだけでしかないのだ。いつかは恋愛というものを真面目に考えて見なければならぬ時がくるとは思っているが。

(3) 私は恋愛と云うことを真剣に考えた事はない。しかし婦人雑誌などの恋愛小説を比較的多く読んだがすべて読んだ後で人間のはかなさがしみじみと感ぜられる。又私には恋愛の経験もなくそれを理想のように感じている。

失恋の為に自殺したり自分のあらゆるものが左右されたりするのだから恋愛中ならさしあたっての大学入試にも多大な悪影響を及ぼすものであろうと思う。それで恋愛するほど大胆な進歩的な私ではありませんがもしやるなら大学へ入ってからやろうと思う。

僕の周囲にはかわいそうな同年輩の少女が多くいるができればそれら皆を自分の妻として自分の力で幸福にしてやりたいと思ったりすることがよくある。これは「三四郎」の Pity is love からくることかもしれない。何万人という女の中でたった一

人のものを妻とするのは少しこの世に生きた自分としてはもったいないような気がする、これは浮気をしようというのではない。

高校生男女が仲よくしているのを見ると私は腹が立ってくる。まるで劣等感を覚えるように感ずることである。

高校生には恋愛は不用であって勉強一すじにいそむべし。

(4) 恋愛と結婚は別

恋愛と結婚とは別である、現在私達の考えている恋愛とは単なる好き嫌いの観念からなつていような気がする。私の場合好きな女の子はあるか、ただどことなしに好きだと感じるだけだ。どこが好きかと尋ねられたら答えようがない。答えようがないくらい淡い片恋なのかもしれない。恋といえるような恋をして見たいと考えることはたびたびある。だがその向うへは、結婚へとは考えたことはない。あくまでも恋愛は恋愛、結婚は結婚である。恋愛の相手の女性はそれは華やかな方がいいだろう。だが結婚の相手は女房役にふさわしくなければならぬ。しとやかに日本的な女性が理想だ。こう考えると恋愛は遊戯にすぎなくなってくる。現在の私達には遊戯以外の何ものでもない、恋愛の経験というものがないからかもしれない。しかし恋愛と結婚とはあくまでも別であるという考えはなにかが起るまでは変わらないだろう。

(5) 恋愛という感情は本能につながるもので、そのために盲目的になり、そしてそれがとても神聖な美しいものにあげたてられそれ一すじに生きるという人がいる、がしかし少し冷静に考えて見るとこれも成長の一過程にすぎなく何もそのため頭を叩きにする事はないと思う。長い人生に於て青年期の思い出としてのほんの一コマがそれに当てられればよいのであって芸術家や一部の女性のようにひたすらそれを美化し感情におぼれる必要はないと思う。原子時代のこの世の中に人間はすべて機械化しすべての人が打算的利己的でロボット化しつつある時恋愛は人生に人間味を与えてくれるかもしれない、そういう意味でもし恋愛崇拜を少しかは認めるとしてもそれはあくまで理性の上に立っての事があり決して行きすぎてはならないと思う。

(6) 異性に対して何の反応もなかった私が或るふとしたきっかけによってある異性に対し私の異性として始終注目するようになった。受験勉強と両立出来ないと言われている私はしまったと思うや否やふり払うと努力したがその二日ぐらいは胸の動悸と一回の夢ですこぶる興奮状態だった。宗教にこっている姉が「人間の愛はきたない、私の愛はきれいだ」とよく云うがそれに逆して私は彼の異性と恋愛状態に突入したような様子を走馬燈の如く頭にえがいていた。しかし発展して家庭を持つところ迄夢みるのは実にいやだった。いつ迄も高校生として楽しい恋愛をしたいと深くに思った。絶対に大人にはなりたくないと思った。

しかし、そんな状態が二三日続いただけで今は受験勉強の方が完全に打勝った。「世にはいくらでも異性がいる。あせらなくてもよい、大学に入ればもっと楽しい恋愛が出来る」と自己をなぐさめて目下勉強に没とうしている。

(7) 女性の立場

この間の遠足の帰り、ブラリブラリ歩きながらあたりに人気のないのを幸いにい

ろいろなことを話しあった。兄弟姉妹が何人いたらよいかなどといっているうちに、結婚したら何人子供が欲しいというようなことになってしまった。Sさんは四人、結婚しないというのが2人、自分でも結婚してくれる人がいたならば経済的能力と考えあわせてみるが四人位欲しいというのが二人であった。

結婚一子供とすぐ結びつけたがるのが女子の癖らしい。私としては今までに恋愛感情なんかおこったことはないし、また将来も起きないつもり？だから、恋愛に対してとやかくいう必要がないようだ。しかし友達に失恋して相当まいっている人がいるので最近何となく考えるようになった。恋愛一結婚まで進めばそれでよいか、しかし失恋となるとみじめなものである。私の友人の場合「家」の意向に添わないからという理由で結婚できなかった。もう高校卒業もまちかいせな気が合った同士四・五人も寄ればたいてい恋愛、結婚の問類がでる。誰も女の子を注目していない子はいないとSさんはいう。彼女は注目されているので、自信たっぷりなそうだが、私なんかはひやかし半分にも聞いている。私は、一生結婚しないつもりでいるから、恋愛などを考えていられない。自分でどうして食べていくかが問類である。兄が私にいつもこういう、「お前みたい者は貰い手がない」はじめは相当反ばつもしたが、此の頃はそんな事を聞かされても何とも思わない。あたりまえなんだと思うだけになってしまった。

Kさんは「あんたと私はいつまでも結婚できないだろうから、同窓会に出席するのがいやになるね」といった。きっとそうなるだろう。

#### 〔運営の反省〕

予期した如く話の出発に手間どったのは、一つには教官の参観が多かったためであろうしかし一度話題が行き渡ってしまうと次第に活潑になった。論争の中心は専ら、友情と恋愛、勉強と恋愛という所に終始したのも止むを得ない。結婚は矢張り現実の問題ではなかったのである。生徒の発言の状態は良く、日頃目立たぬ生徒も堂々と意見をのべていた。対立意見に対して、指導者が適当に処理すべきであるが、これは難問題である。例えば勉強と恋愛との両立、非両立の論争は單配をあげかねて、数的結論にとどめた。大体に於て多数の意見をきき得た点、成功であったと思う。又、討議は最後まで上品にすすめられたのも男女双方が互に相手を正しく意識したため嬉しかった。生徒の感想によれば、先生のきいていないこうした話し合いが必要である、という声があった。又男子側の希望として女性にもっと友人として、つき合ってほしいという声もあった。

友情と恋愛についての結論的意見は、高校生の間は友情にとどまるべきであって、恋愛にまで発展すべきでないという意見が一般的であった。

「誰もがその人なりに考えを持っている」これを確かめ得たのは大きな収穫である。とは一生徒の感であるが、その通りだと思う。問題はこれから発展する所である。この話し合いを契機として、グループ間の意見交換がつついた事と思われる。

最後に、このような問題についての参考書なり、有名人の意見を解説するのは有効のように思う。厨川白村の「近代の恋愛観」などは今日の高校生にとって、自明の理であることがいかに根強く主張されたかを知らせる適当なものであろう。そうした点、もっと時間をさいても良かったのではないかと反省している。

以上



## 主題 協同生活の喜び

今回は二年A組のホーム・ルームを”協同生活の喜び“と言う課題の下に行ったので、その事に就いて述べて見ようと思う。まず“協同生活の喜び”と言う課題を提示された時、此の課題の下に討論会を行うことに決めた。さて此の“協同生活の喜び”の“協同生活”とは何であるかに就いて考えて見よう。協同生活とは我々人間が二人以上協同して営む生活を云うのであり、小さくは我々の家族や、交友関係、大きくは我々の生活している社会関係になるのであるが、一般には団体生活としての社会生活を指していると言えよう。ところで今、ホーム・ルームで問題にする協同生活とは、即ち学校生活である。生徒にとって家庭での生活、又は友人との生活も協同生活ではあろうが、その大部分を学校で送る学校生活が生徒にとっての協同生活であることは言う迄もないことであろう。さて此の学校生活の喜びと言っても色々な点が考えられる。学校生活とは、普通朝登校して授業を受け放課後帰って行く毎日の生活を云うのであるが、生徒はその毎日の生活に喜びを見出しているであろうか。大半の生徒は毎日の学校生活の中の何等か特別な生活の中に喜びを見出すのではなからうか。此の点を先ず調べて見るために、事前に一時間の時間を割いて生徒に半紙一枚に学校生活の如何なる生活(具体的に)に喜びを見出すか、又何故に喜びを見出すかに就いて書かせて見た。その結果は、生徒の大半はクラブ活動又はスポーツ(春秋の球技大会、体育祭を含む)等に喜びを見出しており、その他修学旅行(二年の場合は特に)、予餞会、文化祭、昼食時の談合等に喜びを見出す者もいるが、此等の数は少ない。結果的に見ると、矢張り毎日の授業による学校生活よりも、学校行事の生活に喜びを見出しているようである。特に毎日の学校生活では、クラブ活動や、休み時間のスポーツ、行事としては春秋の球技大会、体育祭等の行事に喜びを見出しているようである。これは最近の受験難から高校生活がどうしても予備校化せざるを得ない以上、毎日の学校生活が受験の方向に進みがちである点、スポーツを求め、春秋の球技大会、体育祭に喜びを見出すようになるのも当然の傾向かと思われる。又クラブ活動は近来不活潑であると言われて来たが、生徒の調査によれば、之に関心を持ち、喜びを見出している者は多く、学校生活に於て一口の授業を終えて、自分の好きなクラブに於て仲の良い友達数名と共に好きな学科に又、スポーツに励むことが出来ることに大きな喜びを見出しているようである。この点クラブ活動には全員成るべく所属するようになっているが、生徒の関心は大きいことが考えられる。ただこれも三年になり受験生活に入ると必要上うすれて行くのであろうが、二年の間は、まだクラブ活動に対する関心や喜びも強いようである。又次いで関心の多いのは修学旅行であるが、之は特に二年生にとっては忘れられない喜びであろう。めったに旅行出来ない処に全員(殆んど)で行けるのは大いなる喜びである。又昼食事又は昼休みに於ける仲の良い友達同志の談合に喜びを見出したり、又休み時間に於ける雑談に喜びを見出している者も数名あるが、これは勉強に疲れて、気の合う同志の雑談の中に一種の心の安楽さを見出した喜びであろうと思う。

その他少数ではあるが、放課後の掃除に喜びを見出した者もいるが、之は当番に当たった者が、自分達の教室や廊下を一致協力して掃除することに働く喜びを見出しているのではあ

ろうと思う。以上色々な学校生活に喜びを見出しているのであるが、調べた結果を統計して述べると次の如くなる。

1. クラブ活動 (16人)
2. スポーツ (運動会, 球技大会等) (14人)
3. 修学旅行 (7人)
4. 予餞会, フォークダンス (4人)
5. 文化祭 (3人)
6. ファイアストーム (2人)
7. 昼食の雑談 (2人)
8. 放課後の掃除 (2人)

以上クラブ活動, スポーツ等に最も喜びを見出していることが分る。それでは次に生徒は以上の学校生活に如何なる理由で喜びを見出しているのだろうか。各生徒の意見の中, 代表的なものを次に挙げることにしよう。

- A, 中学時代からバレーボールをやっていたが、此の競技は9人の人々が心から融合しなければ絶対勝てないので、生来わがままであった自分は他の意見を聞き自分をおさえ、チームの為に尽す人間になったと思う。
- B, 修学旅行に於て第一に多くの友人が出来たこと。第二に友人を得ることによって、自分の欠点が明らかにされたこと、旅館の中で私の家庭に於ける悩みを打ち明けた時そんな例を幾つも挙げて私を励ましてくれたAさん、私はわがままであり自尊心が強すぎると注意して呉れたBさん。親友だからこそ人の短所を話してくれたのだと思うと、協同生活に於ける最大の喜びは友人を持ってその結果自分自身が大人になるという事であることを知るのである。
- C, 男女共学だと団体の友情が現われ、例えばフォークダンスにしても楽しいことだと思う。高等学校は個人的交際よりも団体的交際の方が美しいと思うので、大いにハイキング、サイクリングに楽しんだ方がよい。
- D, うれしい事も楽しい事も共に語られ、又他人の良い点や欠点を知ることが出来て、自分に照し合わせ欠けていたと思われる事を他人から学ぶ事が出来る。
- E, 家に兄弟がおらず、淋しいので学校で皆と一緒にあった方が楽しい。
- F, 放課後の掃除をする時は気持が良い。掃除を全部が本気でする気になっている時は長びくこともなく、自分だけが見ているわけにもゆかないので、自然一生懸命にするようになる。そのような掃除の終わった後や、他の人と一緒に何かをしたり、又してしまっただけには、自分は常に喜びを感じる。
- G, 私は学校新聞編集局員になっているが、局に於ては、皆がすごく協力的だ。特に好きな者が寄り集っているからかも知れないが。編集の仕事は協力が一番大切だ。苦勞すればする程後の反省会では思い出が深いし、自分の原稿が活字になった時の喜びは大きい。個人的だけでなく、皆に新聞を配った時、はじめて皆の喜ぶ顔を見て局員一同喜ぶのである。
- H, 学校に於ては年令的に皆同じだから、その中に於て自分がどのような事を考え、又どのような行動を取るべきかが他人の様子を見たり、又互に話し合うことによって分て来る。

- I, クラブ活動, ホームその他で同じ苦勞, 同じ喜びを味わった者同志が友達になる。これは非常に良いことだと思う。友人の部類には入らないが, 良き先輩が出来ることは友人とは違った面で非常な感化を受けることだ。
- J, 孤独と云う感情を協同生活をするることによってなくすることが出来る。自分は孤独ということは嫌いだから, 他人と交わって話しをしたり, 自分の感情を示して共に遊ぶことは, 将来の自分にとって良いことであると思うのである。
- K, 学校に於いて人間関係を知ることが出来ると言うこと, 友人を持つことによって自分が強くなる事が出来ると言うことが最も大きい喜びです。
- L, 少数の人達ではあるが, 個人的な悩みを話し合ったりして, 人それぞれの考え方や立場について考えさせられることが大いなる喜びである。
- M, 学校生活に於ては, 団体生活の規則正しい生活が送れる。家ではあまえてわがまま一ぱいに暮し, 何でも私の言う通りになる肉親の中に居る私は, 計画性のない事が一番の欠点である。学校に於てはわがまを許されない。自分で止めようと思えば止められる悪いくせがなかなか直らなく, 今でも末っ子生活に甘んじている。学校内だけでも規則ある生活が私にとっては有難く感ぜられる。

以上の色々の意見を要約すると次の如くなると思う。簡単に述べれば,

- 友達同志話し合ったり物事をしたりする事に喜びを感じる。
- 自分に兄弟がないために心の淋しさをまぎらわす点に喜びを感じる。
- 自己の悩みを解決出来る点に喜びを感じる。
- 協同生活により規則を身につけ, 自己を鍛練出来る。
- 良き友を見つけ, 友情を深める点, 男性としては女性を知る機会となる。
- 他人の長所を取り入れ, 利己主義をなくする。
- 協力し合って働く点に喜びを感じる。
- 個人で出来ない色々の事が出来る。(特にスポーツ等に於て)
- 大勢の中であって始めて自己を見出した点に喜びを感じる。
- お互い同志の愛情が深まり, お互いの意志が溶け合う点に喜びを感じる。

以上大体の者が協同生活によって友達を作り, 友情を深め, 又団体生活の中で自己を鍛練し, 向上されて行くことの出来る点に喜びを見出しているようである。最後に, 之とは逆に協同生活に喜びを見出さない意見もあったが, 極く少数であるし, この討論会では協同生活の喜びについての討論をするので, ここでは取り上げないことにする。では次に実際に行った討論会について述べることにする。

まず運営の方法として, 事前に生徒のクラス委員と相談して実際の方法を考える。その結果, 司会者としてクラスより二名を選び, 教室の配置をコの字形にすることに決める。なお討論会の討議の順序は次の如くすることに決める。即ち,

1. 最初に本時の討論会の主題及び主旨についての説明を教師側にて行い, その後討論会への導入を行う。
2. 司会者の注意
3. 次の諸点について討論
  - ㊦ 協同生活の喜びを学校生活の如何なる場に見出すか。
  - ㊧ 如何なる理由で喜びを見出したか。

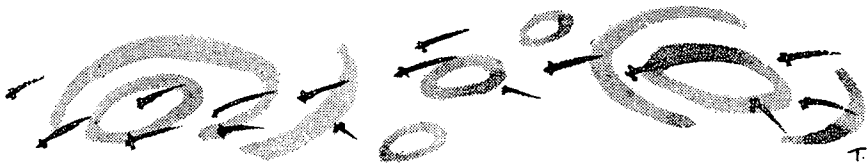
④ 協同生活に於ける協同友愛の精神についての意見。

⑤ 最後に担当者のまとめ。

以上の準備並びに予定の下に討論会を行った。まず司会者には男女各一名が当たったが、男子の司会者の司会により討議を進めて行った。司会者の説明により、本時の討論会に於てはお互いの学校生活に於ける喜びの経験談を語ることにすることに決定する。司会者からの指示により、指命された各生徒は立ち上ってそれぞれ自己の経験を語る。大体事前の調査の通りに、クラブ活動、スポーツ等に喜びを見出している者が多かった。クラブ活動に於ては友達を作る点や、対人関係に於て自己を鍛練する点に喜びを見出しており、スポーツに於ては、他の人と協調してやっけて行く点に喜びを見出している者が多かった。

又クラブも単に運動クラブだけでなく、文化クラブに於ても、友人達と話し合っけて共に仕事をして行くことに喜びを見出すと言う意見もあった。その他色々意見もあったが、大体は事前に調査した範囲を余り出た意見は無かった。結局クラブ活動特に文化活動にせよスポーツ活動にせよ、その中に於ける喜びとは、友達を作る点、友達の中に交って自己を知る点、皆と共にいることにより他の感化を受けて自己を向上する点に喜びを見出したと云う意見が多かった。更にかかる意見から発展して、お互い同志の協同生活に於ては、遊びよりも、友情の中に喜びを見出すのであると云う意見になり、遊びと友情との意見の対立があり、活潑に意見の交換が行われるに至ったが、残念ながら時間が無くてそこ迄討論し尽すことは出来なかった。最後に担当者として私のまとめの言葉として、生徒諸君のまじめな意見を知り、今後の学校生活に於て更により以上の喜びを見出して、楽しい学校生活を送って欲しい要望を述べて終了とした。

反省して見ると、今回の討論会は具体的な感想意見に終始した感で、単なる話し合い、各自の感想発表会に終り、討論会としてのもっと突込んだ意見が出てほしかったと思ったが、これは担当者としての事前の指導が不充分であったことを痛感している次第である。例えば協同生活の喜びを語る場合、協同生活でない生活、即ち個人生活に於ける喜びも当然考えられるわけであり、両者を対立して考えて見るのも良かったのではないかと思う。事前の計画としても協同生活に於ける喜びを討論するに当り、協同生活に於ける友愛精神迄発展さず積りであったが、実際はなかなか困難で、単なる具体的な体験談になってしまった。如何に抽象論としての討論会が難かしいかを知ったのである。以上今回の討論会は結果的に見て成功とは云えないが、お互いが、学校生活に於ける喜びを今迄ばく然と考えておったのを実際に言葉で表わし、文に作り、又ホーム・ルームで話し合っけて、今後の学校生活を楽しく送る決心をしたことに重大な意義があったと思うのである。



## 主題 個人と社会

目標 社会は単に個人の複数ではなくて、個人の 総和+X であり、そのXがその社会が国家であれば国家の精神であり歴史である。社会であればそのXはその時代精神であり家を単位とすれば家風であり、学校においては校風となる。若し社会が単に個人の総和以上の何ものでもないならば、個人はそのワク内に於ていずれを向くとも自由であろう。しかし、社会が個人の 総和+X である場合、その個人の生活や思考がある程度の制約を受けることは当然である。その見地より、生徒に生徒の属する具体的な社会、即ち家庭学校・学級・生徒会に於て如何にあるべきか、又それ等の社会と自己の欲求が反した場合如何に処すべきかを考えさせる。結論を無理に引き出そうとせず、生徒の考え方を参考に教師は、あるべき姿を暗示するにとどめる。

## 準備

1. 生徒に前もって、個人と社会の討論主題をあたえ、更にそれを具体的に考えておかせた。
2. 討論数日前に、次の如き予備調査をプリントによって提出させた。
  - イ、生徒会と自己
  - ロ、クラブと自己
  - ハ、クラスと自己
  - ニ、家庭と自己

## 運営 社会と個人

1. 教師より本日の Home Room Hour の説明を行った。
2. 教師より社会と個人との関係について一般的な概念をたたえた。
3. 教師より社会と個人の主題を、より具体的な討論の主題にかえ、討論の主眼点を提示した。
4. 討論主題の予備調査をしたプリントを全員に配布した。
5. ホーム・ルーム委員を司会者に指名した。

## 討論〔1〕「生徒会と自己」

予備調査の結果は次の如くである。

(男子 26名 女子 14名 について)

|                                 |      |     |
|---------------------------------|------|-----|
| イ、生徒会活動と自己との間に矛盾を感じないもの         | 男 7  | 女 4 |
| ロ、生徒会活動と自己との間に矛盾を感じるもの          | 男 3  | 女 1 |
| ハ、勉学第1主義というもの                   | 男 2  | 女 2 |
| ニ、生徒会活動に成る可く深入りしないで消極的にいこうとするもの | 男 1  | 女 2 |
| ホ、生徒会に積極的に参加しようとするもの            | 男 3  | 女 2 |
| ヘ、不明なもの                         | 男 10 | 女 3 |

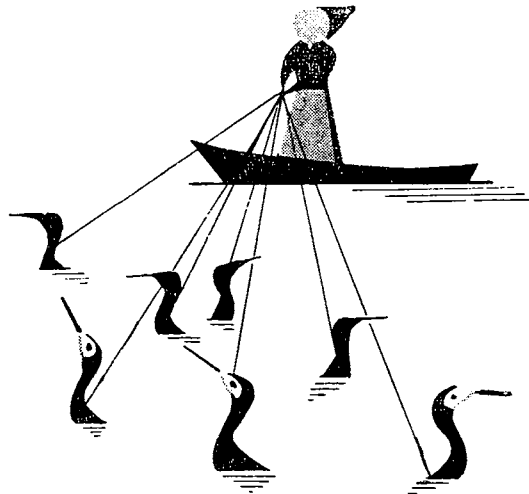
## 〔2〕「クラブと自己」

|                         |     |     |
|-------------------------|-----|-----|
| イ、クラブ活動と自己との間に矛盾を感じないもの | 男 9 | 女 3 |
| ロ、クラブ活動と自己との間に矛盾を感じるもの  | 男 4 | 女 1 |

|                                       |        |
|---------------------------------------|--------|
| ハ、積極的に参加せんとするもの。                      | 男5 女8  |
| ニ、不明なもの                               | 男7 女2  |
| 〔3〕「クラスと自己」                           |        |
| イ、クラス全体と協調しようとするもの                    | 男6 女3  |
| ロ、自己を中心として、クラス全体を第2義的に考えるもの           | 男3 女0  |
| ハ、クラスを絶対に中心として、その後、自己の行動を考えんとするもの     | 男6 女2  |
| ニ、クラスの活動内容により、自己の行動を協調させ又は、反対させんとするもの | 男3 女1  |
| ホ、全く無関心、冷淡であるもの                       | 男1 女0  |
| ヘ、不明なもの                               | 男7 女8  |
| 〔4〕「家庭と自己」                            |        |
| イ、自己の今後の進学等の問題を生じた時、家庭の意向に妥協せんとするもの   | 男6 女2  |
| ロ、最初から家庭の意向を中心に考えているもの                | 男0 女3  |
| ハ、自己を中心として家庭の意向を無視せんとするもの             | 男10 女5 |
| ニ、不明なもの                               | 男10 女4 |

以上の予備調査を主な材料に討論したのであるが、一般に生徒の考えは穏健であるが中には、何故利己主義的、即ち自己を中心とせる行動がいけないかに疑問をもつものあり、ひいては、自己というもののあり方に深い疑惑をもち、人生問題に及ぼしているものもあつたようである。教師側の指導としては、個人は全体の中の個人であり、自己中心的に走らず、自己を失うことなく、同時に自己の社会に協調することが、真に自己を生かす所以であるという方向に討論の結果をもたらした。

以上



## 主題 協同生活の喜び

目標 現代はきびしい。高校生はこれを毎日痛感しながら生活をしている。そしてこのきびしさは大学に入ってから、あるいは職についてからも続くものと思われる。お互いの協同体としての意識を忘れさせ、生徒の現在の高校生活の内容をも貧しいものにしていく。この対立と競争のきびしさをどのように受取っておくであろうか。卒業を間近かにひかえて、現代における協同生活の喜びをいかにしてつくり出すかについて、お互いの建設的意見を卒直に出しあって、今後の新しい生活態度の参考に資したい。

- 準備
1. 進学を間近に控えて、ややもすれば各生徒が閉鎖的になることを考え、意見が活潑に出されるようにするために、ホーム・ルーム代表と相談して形式をシンポジウム形式にし、二つの論題を決定し、生徒の賛成を得た。
  2. 生徒の互選により、司会1名、講師4名のうち3名を選び、別に講師として校長を入れる予定であったが、校長から意見があり代りに1名を補った。
  3. 講師に発言要旨を提出させ、これをプリントして生徒にくぼせて、質疑討論の参考に供した。
  4. 机の配置はコの字型にした。

運営 対立と競争が強く意識される現代において

1. 協同生活の喜びをいかにしてつくりだすか。
2. 協同生活はいかにして可能であるか。についてのシンポジウムイ、教官の「論題設定の理由」説明  
ロ、講師発言の要旨。

講師A 喜びを感じるのは個人であり、団体ではない。協同生活において自分のため、自分が行動するものである。個人は全体をつくる一人であるから、このような自分の信念と協調性をもつことによって協同生活はうまく営まれる。

講師B(女) 自分の殻ばかりに閉じこもっていないでみんなの中に入ってゆかねばならない。年令を重ねるにしたがって会議への参加に消極的になるなどいけないことである。こんな問題に真剣になるのがばからしいのか？

講師C(女) 虚飾の心理が他人との妨げになっている。協同生活における自由と安寧は調和によってはじめて得ることができる。もちろん協同体の究極のエレメントは個人である。個人の自由福利は協同体の自由福利に通ずる。

講師D 対立は宿命である。しかし人間は孤独では生存できない。高校時代は協同生活の基盤を築く重要なときで、真の友人ができるのもこの頃だ。ともに行動し、ともに苦しみ悲しみ、そしてともに楽しむのだ。相互の理解を深める。そこによさが生れる。ともあれ協同生活は終生の課題である。

ハ、質疑応答の経過

生徒一 過去は支配者の対立の歴史であったが、現代は庶民の間の対立の時期であるため対立が強く意識されるようになった。自分の幸福の尊重から他人の幸福の尊重が生れてくるのであり、自分の幸福を考えてゆけば協同生活がうまくゆき、対立も少くなるのではないか。

生徒二 自分だけの事しか考えないところに真の友情があるだろうか。

講師A 自分の気持を尊重したい。友情は存在すると思う。

生徒三 自分の優越感のためにのみ行動して果して協同生活がうまくゆくか。

講師A 自分のために行動することが他人のためにもなってゆくのだ。

講師D 自分のためという気持をもって人間生活がうまくゆくか疑問だ。

生徒四 協同生活にはクラス的なものとクラブ的なものと二通りあると思う。

講師D 同感である。まず指導者の問題であるが、リーダーを人に求めず自分がリーダーであるという気持をもち、また他人のリーダーシップをも認めることが望ましいと思う。

講師B 誰かが先頭になって物事をやるということは本校では無理だ。一つの中心に集まるということが行われない。

講師A 僕が生徒会の役員をやったのは将来自分のためになると思ったからで、他人のためにリーダーになったのではない。自分のためである。

生徒五 自分のためというのは、他人を犠牲にすることと思うが。

講師A そうかもしれない。

生徒五 そうすれば協同生活は成立しない。

講師A だが普通の人は良心があるからそうはできない。

生徒六 そんな考えでは無理だ。

教官 僕の場合、協同生活は自分と他人を含めて最も合理的と思うようにやってみよう。

講師D 協同生活に皆が理想や憧れをもっているのだが、現実はいかに難しい。

生徒七 個人の側からすれば、飽くまで協同生活に浸り切る事は不可能だ。

生徒八(女) 一つの目的に向って協力するのが協同生活で、Dさんの意見に賛成する。

生徒九 一人の強いリーダーが必要だ。

講師D 人間の向上には対立だけでなく協調が必要だ。

生徒七 融和より対立が文明の進歩をもたらすのではないか。

講師A もし協同したらもっと進歩したかもしれぬ。

教官 学界では今日は研究の協同化が支配的で、学問の内容が大規模になり複雑になるにつれ、このことは必然的であると思う。学問を愛する学者は競争よりも協同をこそ信ずる。

生徒七 では最後には競争がなくなり、融合のみになるか。

講師A 対立はなくなることがない。

生徒十(女) 私もそう思う。



教 官 対立は二つのものが単に並存している状態ではない。憎しみの感情をもって、にらみ合っている状態をいう。にらみ合いが宿命であろうか。

生徒十一 われわれは対立や競争を余りにも強く意識しすぎているのではなかろうか。

生徒十二 協同生活においてはD君のこのような共通の目的をもつ必要はない。個人個人の理想だけでよいのではないか。

講師D 理想の中に共通の目的がある。

生徒一 よりより自分をつくりあげること努力すれば対立はなくなると思う。

講師A 協同生活をよくするのも悪くするのも、みんな自分の気持次第だ。

生徒十三 抽象論は無意味だ。実行できることで身近かな問題を討論すべきだ。

生徒一 さきほどから協同生活が可能かについて話し合われ、その喜びをいかにして作りだすかについてはのべられていない。

講師D もっとも切実な問題の入試準備であるが、自分ひとりではなく、数人集って勉強し合うのがよい。一般に対立を意識しすぎて自分の殻に閉じこもるのはよくない。

生徒一 学問を愛して大学へ進むのなら受験に対立はないはずである。

司 会 論題の性質上、結論をみいだすことは難しいが、お互いの意志の疎通もはかられ、それぞれ何等かのものを得られたことと思う。これにて終わります。

反省 質疑応答のあとで教頭より講評をいただき、また生徒からは感想文が提出されたので、それらを参考にして考えると、

- イ、論題の選定にあたっては卒業後の生徒の生活の一つの指針ともなるものを体得してもらおうことを目途に、敢えて、こまかい問題にしぼらなかつたのであるが、抽象性とスケールの大きいことの故に、議論が抽象論にのみ終つたという批判があつたしかし、「協同生活は、積極的に行動し、喜びも悲しみもともにすることによってのみ得られる。」との発言にもあつたように、協同という語を単に抽象名詞としてでなく、より具体的な形で受取つたものも多いようである。
- ロ、シンポジウム形式をとつたことは一応成功であつたと思う。いつれの形式にししろ、打上げ花火的に一回だけ討論の機会をもつのは不十分で、普通の授業のように時間をかけて、意見発表の修練を重ね、生徒間の意志の疎通をはからなければ結実が少いことが痛感される。
- ハ、問題になつた「個人の満足と協同一い意味の個人主義」と「リーダーの問題」については発言が非常に複雑多岐で青年期の、特に本校生徒の考え方について教えられることが多く、生徒の実態をつかむ機会を更に多くする必要のある事が反省される。

| 生活指導委員会                 | 研究部員    |
|-------------------------|---------|
| 村 上 賢 三 (校 長)           | 出 石 隆   |
| 川 西 友 吉 (教 頭)           | 中 原 吉 晴 |
| 出 石 隆 (研究部代表)           | 野々市 幸 子 |
| 田 辺 啓 三 (補導部代表第2学年主任代表) | 高、松 富 子 |
| 綿 谷 勝 以 (社会科代表)         | 鍋 木 光 朗 |
| 松 原 繁 磨 (社会科代表)         | 能 崎 克 己 |
| 高 宮 孝 治 (第1学年主任代表)      | 竹 内 昭   |
| 高 瀬 允 (第3学年主任代表)        |         |